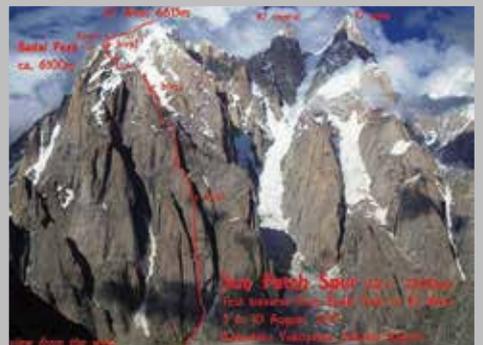


登山月報



熊野岳山頂



第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」山岳競技報告……………	2
アジア選手権報告……………	4
第108回 Mountain World……………	5
「山の日」制定記念—ふるさとの山を登ろう—……………	6
Giri Giri BOYS K7 Expedition 2017 報告……………	6
平成29年度中高年安全登山指導者講習会（西部地区）報告……………	10
平成29年度無雪期レスキュー講習会……………	12
JMA、寄贈図書、編集後記……………	13

第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」山岳競技報告

10月1日～3日、愛媛県西条市の石鎚クライミングパークSAIJOにて第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」の山岳競技が開催された。

今回、成女の茨城県の野口、小林がブロック大会にて敗退し未出場。また、成男予選において、2017世界ボルダリングランキング2位の榑崎智亜のいる栃木が敗退した。チーム戦の難しさもあるが、予選からいろいろ波乱のある国体となった。決勝で世界トップの選手が見られない寂しさはあったが、各県チームの戦いに盛り上がった。

<成年男子>

リードでは、福岡県の緒方良行が高度31+の完登に迫る登りで個人1位となったが、愛媛県の清水裕登が個人2位・徳永潤一が個人5位とバランスの取れた成績で優勝を勝ち取った。そして、大阪の原田海も高度31と好成績で大阪を2位に導いた。一方、世界大会で表彰台にも立っている埼玉県の是永敬一郎・波田悠貴には注目が集まったが、壁上部の傾斜が増し始めるボリュームから細かいホールドを処理する部分でミスし3位にとどまった。ここを通過するかしないかが1位、2位との分かれ道となった。

ボルダリングは、高グレードの課題が多く完登率が37.5%と低かった。3完登で大阪と和歌山が並んだがアテンプトで大阪1位、和歌山2位となった。そんな中で、第3課題を一人だけ完登した福岡県の緒方良行は、8アテンプトかかったが選手としての意地が感じられた。

<成年女子>

リードでは、北海道の小武芽生が高度39+で個人1位となったが、福井県の尾上彩が高度38+、廣重幸紀も高度38+とそれに続く見事な登りで、2人とも個人2位の成績、チームとして優勝を勝ち取った。

ボルダリングは、男子と違い完登率70%と観戦者も楽しめた内容であった。山口県の小田桃花が全完で個人1位となる。尾上彩も全完だったがアテンプト差で2位。そして廣重は1完登にとどまるが、チームの完登数で山口県をかわし優勝を果たす。リード、ボルダリングでの優勝は来年開催地の福井県として素晴らしいお土産となった。一方、野中生萌は第2課題を一撃するなどさすがとを感じる部分もあったが、世界戦の疲れか全体的にはいつもの冴えが感じられなかった。



<少年男子>

リードは、9月に開催された世界ユース選手権で活躍した栃木県の榑崎明智が高度34+で個人1位。埼玉県の本間大晴も高度34+を記録するが、栃木のもう一人の選手茂呂居岳人が高度24で6位に食い込み栃木県が優勝した。

ボルダリングでは、厳しい課題が多く1課題目、4課題目は完登者なし。個人の成績としては第2課題、第3課題を完登した栃木の榑崎明智が1位、茨城県の今泉結太2位となったが、第2課題を2人が完登した埼玉が優勝した。特に、埼玉の中村颯人が第2課題を1撃完登。これが勝敗を分けた。

<少年女子>

リードでは、中間部(高度18)でフォールする選手が50%と全体的にテクニックを要するルートと感じた。やはり、世界ユースで活躍した岩手県の伊藤ふたばが高度35+で断トツの個人1位となった。上部のボリュームから終了点へ左にトラバースする部分でロープが足に絡んだがそれがなければ、完登していたかも知れない。

優勝は、大阪の森脇ほの佳が高度29+で伊藤に次ぐ2位、大塚優希が23+で7位となったが総合で勝



ち取った。岩手が2位、東京が3位と続いた。

ボルダリングは、難しすぎたのか完登数4（完登率12.5%）に終わった。第1課題、第2課題ともに完登なしで競技が進む中、第3課題で愛知の倉菜々子が完登。続いて伊藤ふたばも完登。そして、伊藤は第4課題を1撃で完登し岩手を優勝に導いた。

今回のリード、ボルダリングのルート、課題はいろいろな要素を組み込んだ内容であったが、結果から難しすぎたように感じる。現在、2020年の影響もあるが、観戦者を意識し登らせて順位を決めるようIFからも方向性が示されている。しっかり、セッターとの認識の統一を図り進めていきたい。また、個人的な意見だが、国体のボルダリングは1トライ2課題であるため6分となっている。登れない場合、6分間それを見ているのは飽きる。時間短縮も課題と考える。

運営面では、いくつかの国際大会の運営に関わった経験から、施設、スタッフの配置が画一され過ぎと感じた。これも個人的な意見だが、毎年開催地が変わるため致し方ないところもあるが、メーカーからの提案を受け入れ過ぎではないか。もう少し合理化、VEできるのではないかと感じる。

動線の長さ、液晶ディスプレイの配置など……。国体の場合、かなり先まで開催県が決まり、自治体を含め動いているため、改善を図るにはかなり先の話になってしまう。

スピード競技の環境整備が求められている。現在、セオリー通りでない対応が必要になってくる。ただ、開催県との意識のギャップは大きい。

報道関係は地元CATV、NHKがメインだったが、各選手の追っかけが多く40数社に及んだ。メディアコントロールはあまり行わなかったが、今後はBJCほどではないが必要と感じた。



そして、全体的には2日目雨が降り続き運営面で心配したが、それを見越していたかのように、新たに設置したリード壁のオーバーーフは効果を発揮した。あれがなかったらどうなっていたか。他のスポーツ（ソフトボール）では中止になったと聞く。そして、開催地の西条市は、設備面だけでなく常に情報を共通認識化し対応していた。大会に向けて、成功に導くためにどうしたらいいかという高い意識を感じた。

（記 村岡正己）

成年男子 リード決勝

順位	都道府県	名前	高度	決勝順位	名前	高度	決勝順位
1	愛媛県	清水 裕登	31+	2	徳永 潤一	31	5
2	大阪府	藤脇 祐二	26+	9	原田 海	31	4
3	埼玉県	是永敬一郎	26+	7	波田 悠貴	25+	10
4	福岡県	緒方 良行	33	1	名嶋 祐樹	13	17
5	岐阜県	亀山 凌平	26+	7	日比野良祐	24.5	11
6	茨城県	沼尻 拓磨	15+	16	野村真一郎	31+	2
7	千葉県	村井 隆一	28+	6	島谷 尚季	23+	13
8	東京都	古畑 和音	24	12	大高 伽弥	18+	15
9	北海道	國谷 斗馬	23+	14	岸本 武蔵	12+	18

成年男子 ボルダリング決勝

完登率 37.5%

順位	都道府県	名前	完 / A t	決勝順位	名前	完 / A t	決勝順位
1	大阪府	藤脇 祐二	1/2	6	原田 海	2/3	1
2	和歌山県	小畑 侑大	2/4	3	追田 樹波	1/4	8
3	岐阜県	亀山 凌平	2/3	2	日比野良祐	-	13
4	埼玉県	是永敬一郎	-	14	波田 悠貴	1/1	4
5	東京都	古畑 和音	-	15	大高 伽弥	1/1	5
6	兵庫県	一宮 大介	-	12	櫻井 優治	1/2	7
7	福岡県	緒方 良行	1/8	9	名嶋 祐樹	-	16
8	千葉県	村井 隆一	-	11	島谷 尚季	-	10

成年女子 リード決勝

順位	都道府県	名前	高度	決勝順位	名前	高度	決勝順位
1	福井県	尾上 彩	38+	2	廣重 幸紀	38+	2
2	三重県	義村 萌	37+	4	田嶋あいか	35+	5
3	山口県	大田 理姿	34	7	小田 桃花	34+	6
4	北海道	萩原 亜咲	25+	13	小武 芽生	39+	1
5	長崎県	原田 朝美	29	12	大河内芹香	34	7
6	宮城県	三浦絵里菜	33+	9	田端 真依	7	15
7	埼玉県	加島 智子	33	10	坂井 絢音	23+	14
8	東京都	小川 弥生	5	16	野中 生萌	30	11

成年女子 ボルダリング決勝

完登率 70.0%

順位	都道府県	名前	完 / A t	決勝順位	名前	完 / A t	決勝順位
1	福井県	尾上 彩	4/11	2	廣重 幸紀	1/3	11
2	山口県	大田 理姿	-	15	小田 桃花	4/5	1
3	北海道	萩原 亜咲	1/1	8	小武 芽生	3/5	3
4	長崎県	原田 朝美	1/1	9	大河内芹香	2/4	5
5	埼玉県	加島 智子	2/3	2	坂井 絢音	1/3	12
6	東京都	小川 弥生	-	14	野中 生萌	2/4	6
7	三重県	義村 萌	1/4	13	田嶋あいか	1/1	7
8	宮城県	三浦絵里菜	1/1	10	田端 真依	-	16

少年男子 リード決勝

順位	都道府県	名前	高度	決勝順位	名前	高度	決勝順位
1	栃木県	榎崎 明智	34+	1	茂呂居岳人	24	6
2	福岡県	中上 太斗	33+	3	雪丸 周平	22+	10
3	新潟県	田中 修太	29	4	渡辺 颯海	18+	12
4	埼玉県	本間 大晴	34+	2	中村 颯人	18	15
5	茨城県	今泉 結太	26+	5	石田 諒	18+	14
6	愛媛県	井上 遼	23	8	高村 佳吾	18+	11
7	愛知県	野中 凜	23+	7	百合草碧皇	15	12
8	奈良県	高木 茶助	17	9	西田 秀聖	1	16

少年男子 ボルダリング決勝

完登率 28.0%

順位	都道府県	名前	完 / A t	決勝順位	名前	完 / A t	決勝順位
1	埼玉県	本間 大晴	1/3	4	中村 颯人	1/1	3
2	栃木県	榎崎 明智	2/6	1	茂呂居岳人	-	8
3	茨城県	今泉 結太	2/7	2	石田 諒	-	12
4	福岡県	中上 太斗	1/4	6	雪丸 周平	1/4	7
5	新潟県	田中 修太	1/3	5	渡辺 颯海	-	15
6	愛知県	野中 凜	-	13	百合草碧皇	-	11
7	佐賀県	轟本 直生	-	9	中武 凌雅	-	16
8	奈良県	高木 茶助	-	14	西田 秀聖	-	10

少年女子 リード決勝

順位	都道府県	名前	高度	決勝順位	名前	高度	決勝順位
1	大阪府	森脇ほの佳	29+	2	大塚 優希	23+	7
2	岩手県	田中 里旺	18+	10	伊藤ふたば	35	1
3	東京都	中村 真緒	23	8	平野 夏海	28+	4
4	愛知県	倉 菜々子	25+	6	石井 未来	19	9
5	鳥取県	古川日南子	18	12	高田こころ	28+	5
6	岐阜県	小島 果琳	29	3	泓 香蘭	17+	16
7	神奈川県	阿部 桃子	18	11	菅原 亜弥	18	14
8	佐賀県	樋口 結花	18	12	渡島 夏希	18	15

少年女子 ボルダリング決勝

完登率 12.5%

順位	都道府県	名前	完 / A t	決勝順位	名前	完 / A t	決勝順位
1	岩手県	田中 里旺	-	16	伊藤ふたば	2/3	1
2	東京都	中村 真緒	-	4	平野 夏海	1/1	2
3	愛知県	倉 菜々子	1/2	3	石井 未来	-	10
4	佐賀県	樋口 結花	-	5	渡島 夏希	-	15
5	大阪府	森脇ほの佳	-	8	大塚 優希	-	11
6	神奈川県	阿部 桃子	-	12	菅原 亜弥	-	7
7	埼玉県	金子 桃華	-	13	曾我 綾乃	-	9
8	鳥取県	古川日南子	-	14	高田こころ	-	6

アジア選手権報告

9月18日(月)～21日(木)にかけてイランのテヘランでアジアクライミング選手権テヘラン大会が開催された。

リード女子は、準決勝をギリギリの8位で通過した尾上彩が決勝ラウンド、先頭の尾上がいきなり41を記録し、最後まで尾上は1位を守り、シニアクラスでの国際大会初優勝を勝ち取った。

続けて緒方良行、渡部桂太、藤井快、榑崎智亜が順当に決勝へ駒を進めていたボルダリング男子決勝は、一課題目から日本勢4名の争いとなり、全完登のアテンプト差で、藤井がアジア選手権初タイトルを手にした。

最終日となった9月21日、ボルダリング女子とリード男子の決勝が行われ、女子は野口啓代と尾上がワンツーフィニッシュ。男子では藤井がボルダリングとの二冠を達成し、緒方が3位に入った。

女子ボルダリングの野口は2位に2完登の差を付けた貫祿の優勝となり、男子リードの藤井はただ一人終了点直下まで到達し、ダントツの優勝となった。

また、全選手が「リード・ボルダリング・スピード」の3種目に出場し、個人スピードでは予選落ちとなったものの、男子スピードリレーでは、榑崎・緒方・藤井の日本男子チームが予選を7位で通過し、見事決勝へ駒を進めることができた。最終的には8位となったが、今後はスピード競技でも活躍が期待できる結果であった。(記 安井博志)

◆女子リード結果

- 1位：尾上 彩(福井県連盟)
- 2位：野口 啓代(茨城県連盟)
- 3位：小武 芽生(東京都連盟)
- 4位：Elnaz Rekabi(イラン)
- 5位：Abdul Rohma Syarifah(インドネシア)



男子ボルダリング決勝。男女表彰台独占

- 6位：LaMu RENQING(中国)
- 7位：Hung Ying Lee(チャイニーズタイペイ)
- 8位：Hsiu-Ju Lin(チャイニーズタイペイ)

◆男子ボルダリング決勝

- 1位：藤井 快(東京都連盟)
- 2位：緒方 良行(福岡県連盟)
- 3位：渡部 桂太(三重県連盟)
- 4位：榑崎 智亜(栃木県連盟)
- 5位：YuFei Pan(中国)
- 6位：Gholamali Baratzadeh(イラン)

◆女子ボルダリング結果

- 1位：野口 啓代(茨城県連盟)
- 2位：尾上 彩(福井県連盟)
- 3位：Puntarika Tunyavanich(タイ)
- 4位：Rahil Ramezani(イラン)
- 5位：Rong JIANG(中国)
- 6位：LaMu RENQING(中国)
-
- 7位：小武 芽生(東京都連盟) ※準決勝敗退

◆男子リード決勝

- 1位：藤井 快(東京都連盟)
- 2位：HaiBin Qu(中国)
- 3位：緒方 良行(福岡県連盟)
- 4位：ZiDa Ma(中国)
- 5位：Khosro Hashemzadeh(イラン)
- 6位：YuFei Pan(中国)
- 7位：Ahmadreza Solgi(イラン)
- 8位：Ka-chun Yau(香港)
-

- 21位：渡部 桂太(三重県連盟) ※準決勝敗退
- 26位：榑崎 智亜(栃木県連盟) ※棄権



女子ボルダリング決勝。野口と尾上がワンツーフィニッシュ

第108回 Mountain World

北米登攀のレジェンド フレッド・ベッキー

池田常道

北米のクライミングに興味を持つ人ならだれでも、フレッド・ベッキーの名を聞いたことがあるだろう。70年以上にわたって倦むことなく登り続け、ワシントン州のノース・カスケード山脈を初めとしてカリフォルニア、オレゴン、ワイオミング、アリゾナの各州に足跡を記し、アラスカやカナダでも多くの初登攀を成し遂げた。年間40から50のピークに登り、生涯に記録した初登頂・初登攀は合計1000近くに及ぶ。非公式ではあるが、その数はおそらく世界一であろう。

70代を越えてからはさすがに活動も鈍り、晩年はシアトルで過ごすことが多かった。最近では心臓を病んでホスピスに入っていたが、入院4日目の10月30日に94歳でこの世を去った。葬儀は11月4日、レヴンワース郊外のマウンテンビュー墓地で執り行われた。

ベッキーが生まれたのは1923年の1月、ドイツのデュッセルドルフでのことだった。父は内科医、母はオペラ歌手。フレッドはその長男、ヴォルフガング・ゴットフリードである。2年後には弟のヘルムートも生まれた。第一次大戦の敗戦国となったドイツの不穏な情勢を見限った両親は1925年、一家でアメリカ北西部のシアトルに移住、ファーストネームも英語流にフレッドと称した。

時にベッキー13歳。ボーイスカウトでクライミングを始め、3年後にシアトル・クライミングクラブの会員となった。この年早くも、ノース・カスケードのマウント・デスパイで生涯最初の初登攀を記録した。3年後にはカナダ・コースト山脈のウォディントン(4019m)第2登に成功。パートナーはヘルムート(愛称ヘルミー)だった。6年前にフリッツ・ヴィースナーがウィリアム・ハウスと登った困難なピークを、19歳と17歳の兄弟が再登したことは評判を呼んだ。

4年後にはアラスカ南東部に行き、ボブ・クレイグ、クリフォード・シュミトケとデヴィルズ・サム東稜を初登攀。このほか1945年にマウント・シュクサン、47年にリバティ・ベル北峰、48年にマウント・ベイカー北峰と、ノース・カスケードの山々で「初」を積み上げていった。

ワシントン大学経営学科を卒業したのは1949年、

26歳のときだった。しかし定職には就かず、クライミングバムの生活を選んだ。山への愛が勝ったか、生涯妻を娶らなかった。この年、最初の著書『カスケード・アルパインガイド』シリーズ3巻を上梓、以後も多くのガイドブックを執筆した。『北アメリカの山々』、『氷河の山脈』、『マッキンリー：氷の玉座』、『ノース・カスケードへの挑戦』等々である。また、『アメリカン・アルパインジャーナル』に寄稿した本文記事は22本に及び、その数倍にあたる登攀レポートも寄せた。

1954年には、ドン・マクリーンらとマッキンリー北峰北バットレスを初登攀。ハインリヒ・ハラール、ヘンリー・メイボームとデボラに初登頂、同じメンバーでハンター西稜を初登攀している。

後年、キリマンジャロやモンテローザに登っているが、ヒマラヤの高峰登山にはただ1回しか参加していないため、ベッキーの名は日本人になじみが薄い。それは1955年、当時未踏の巨峰ローツェ(8516m)を試みたときのことだった。ノーマン・ディーレンファースが編成した国際隊に、オーストリアから2人、スイスから2人、アメリカからはベッキーとリチャード・マクゴワン、ジョージ・ベルの3人が参加した。エルンスト・ゼン(オーストリア)の単独攻撃が失敗に終わったあと、ベッキーはブルーノ・シュペーリヒ(スイス)と5人のシェルパを伴って4回目の攻撃をかけたが、後者が雪盲になり、病人を助け下ろすのに残る物資と勢力を使い果たしてしまった。

なおベッキーは後年、新たに開かれた中国の山にも興味を示し、82年11月にアメリカ隊を率いて四川省の嘉子峰(6540m)に初登頂している。



晩年のフレッド・ベッキー。The Mountaineers

「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

山形県 蔵王・熊野岳(1,841m)

山形県山岳連盟では、2017年「山の日」制定記念事業として第18回県民登山を蔵王連峰の熊野岳(1,841m)で行った。

秋分の日(9月23日)の9月23日、蔵王ライザスキーワールドの駐車場に集合して開会式を挙行。伊藤吉樹岳連会長の挨拶の後、コースの説明などがあった。

6時50分に雨模様の中を出発。コースは熊野岳に直接上がる中丸山コース。出発後、天候は回復に向かった。約3時間のハードな登りで9時55分熊野岳に登頂。

頂上での休憩後、下山は馬の背から刈田駐車場、御田神湿原経由でスキー場に戻り、閉会行事を行って無事解散となった。

PR不足と当日の雨で参加者が12名と少なかったが、ガスの晴れ間に見えた御釜の景観、御田神湿原の草紅葉、坊平の信仰登山の旧跡などを満喫することができた。



蔵王ライザスキーワールドから出発



濃霧の晴れ間に御釜が見えた

Giri Giri BOYS K7 Expedition 2017 報告

ももとは横山・長門・増本の3人で向かうはずだったカラコルム・チャラクサ氷河の遠征。2014年にこの3人でバダルピークからのK7ウェスト縦走をトライしたが失敗に終わっていて、今回は再びこの3人で同じようなスタイルのクライミングを計画していた。そこに佐藤が同行を申し出てきた。同時に、縦走よりもビッグウォールフリークライミングを熱望していた増本が佐藤と意気投合し、縦走隊とフリー隊の2チームに分かれてクライミングを行なうこととなった。横山・長門チームは、K7主峰南西稜もしくはK7西峰南西稜のアルパインスタイル登攀が目標。増本・佐藤チームは、バダルピークの新ルートのカプセルスタイルのオールフリーで拓くのが目標。

日山協の奨励金申請には3人で計画書を提出していたが、どちらの隊のクライミングも成功すれば価値のあるものとなる可能性を秘めていること、日本出国から帰国までBC滞在も含めて行動がほぼ同じことを考慮し、給付された20万円は4人で分配することに決めた。

4月からの3ヶ月間は、瑞牆や日本アルプスでのトレーニングをそれぞれのチームで行なった。6月下旬からは富士山に滞在し、高所順応もうまくいったと思う。

- 7/10 出国。と思いきや、フライトキャンセル。成田泊。
- 7/11 出国。ラホールまで。
- 7/12～17 イスラマバード、ならびにスカルドゥにて準備。フーシェまでは車で移動。
- 7/18・19 キャラバン。フーシェ～サイチョー～BC。ポーター29名。
- 7/20・21 偵察、順応の準備、ボルダリング。
- 7/22～25 高所順応。横山・長門はBCより西に位置するドリフィカ(6,400m)、増本・佐藤はBCのすぐ北に位置するソルピーク(5,800m)を目指す。ラッセル、新たな降雪、雪崩の危険等により、それぞれ山頂には立たずに下山。
- 7/26～28 ボルダリング、偵察、準備等。増本・佐藤はベアトリス東壁に目標を変更。
- 7/29～31 横山・長門は再度順応。結局、K7主峰を

ベアトリス東壁10ピッチ目。5.13aの核心



目指せるだけの十分な順応はできず、目標をK7 Westに変更した。増本・佐藤は29日に壁の基部までの荷揚げを行なう。

☆ **Beatrice 東壁 The Excellent Adventure 第2登、フリー初登 600m 5.13 a**

2017年8月1～9日 増本亮・佐藤裕介

ベアトリス(5,800m)東壁には、現在3本のルートが拓かれており、The Excellent Adventure(750m, ED+A3+:初登時のグレーディング)は、1997年イギリス3人パーティーによって初登された、東壁中央を走るクラックを辿るライン。もともとは新ルートに登るつもりでこのラインに取り付いたが、1ピッチ登ったところでアンカーを発見。結局そのまま登ることとなり、最終的にはほぼ同ルートのフリー化となった。600m以上に渡ってクラックが続く素晴らしいルートで、ルート上にあるボルトは終了点のアンカーのみ。ルートは主に3つのパートに分けられ、逆層ハング越えから雪田までの下部120m。特に傾斜の強い5～11ピッチ目の中間部はフリー化の際も核心となり、5.12台5ピッチ、核心ピッチには5.13 aを付けた。上部6ピッチは傾斜が緩まり概ね快適なハンドクラックが稜線まで続いている。更にリッジ上のクライミング2ピッチと雪稜を経てピークに達する。ここまで充実したピッチが連続するヒマラヤビックウォールは、非常に珍しいだろう。

取り付けまでの荷揚げをして2日間のレスト後、BCを出発。9日間の登攀。壁中6泊。4本のロープを持参しカプセルスタイルでの登攀となった。

■ **ピッチ概要**

- 1 P目 A1+後 5.11 b 40m 濡れた逆層ハングからスラブをトラバース。
- 2 P目 5.10 a 60m 左に水平トラバース後、少々脆いフェースを右上。
- 3 P目 5.10 b 55m 濡れたスラブ部分が悪い。
- 4 P目 C1後 5.11 a 40m 雪田テラスからコーナー。小



ベアトリス山頂直下の岩稜



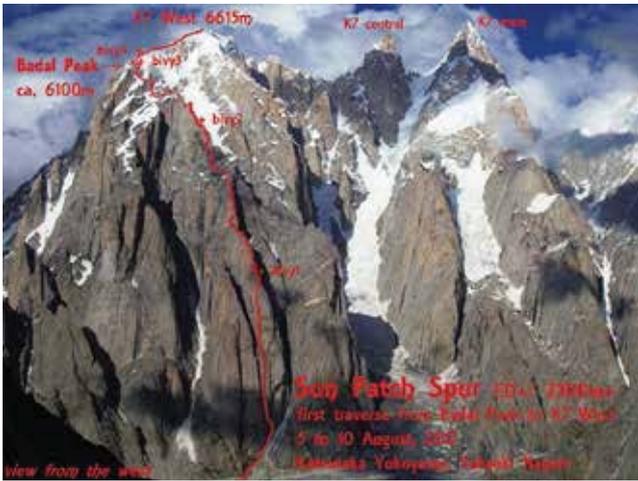
ベアトリス東壁、三日目のビバーク地

ハングから先は泥が詰まっている。

- 5 P目 C2後 5.12 a 20m 以後7 P目までは要掃除。被ったコーナーをレイバックとステミングで。
- 6 P目 C2後 5.12 b 30m 前半はレイバック、後半は甘いジャミングの連続でコーナーをいく。
- 7 P目 C2後 5.12 a 50m レイバックとフェースムーブで変化に富んだ長いクラックピッチ。
- 8 P目 5.10 d 15m フェースを回り込み濡れたコーナーを行く。
- 9 P目 5.12 b 30m 傾斜が一気に増す。ボルダーチックな序盤から苦しいレイバック。最後のマンテルも厳しい。
- 10 P目 C2後 5.13 a 30m 傾斜110度。クラックは途切れ途切れでフェースムーブ中心の核心。
- 11 P目 5.12 c 50m 被ったコーナークラックが50m続く。完登時は濡れていて非常に奮闘した。
- 12 P目 5.11 a 50m 中間部までは濡れていて気が抜けないコーナー。
- 13 P目 5.11 c 60m 完全に乾いて、ジャムのきく楽しいクラック。
- 14 P目 5.9 60m 快適なクライミングがつづく。
- 15 P目 5.10 a 50m 快適なクライミングがつづく。
- 16 P目 5.10 a 30m 快適なクライミングで雪田のあるテラスへ。
- 17 P目 5.9 55m (リッジ到達、壁終了) 傾斜はあるが容易なクライミングで稜線へ。
- 18 P目 5.9 20m 不安定な冰雪を避けながらクライミング。スラブが少々恐ろしい。
- 19 P目 5.10 c 45m 被った岩峰を避け、不安定な側壁をトラバースする。
- 20 P目 雪稜 70m (山頂)。

☆ **K7 West 南西稜初縦走「Sun Patch Spur」 ED+/2300m+ / 5.11 c, A2, 70°**

2017年8月5～10日 横山勝丘・長門敬明



Sun Patch Spur全体図



Sun Patch Spur横からの図

3年前に敗退したバダルピークからK7 Westまでの初縦走をリベンジ。ラインは非常に複雑かつ長大で、実際にどこを登攀したのかの説明が難しいため、単純にK7 West南西稜初縦走と呼んでいるが、ここには新ルートからのビッグウォールクライミングと冰雪壁やリッジの登攀、さらには未知の壁の下降も含まれている(2枚のルート図を参照)。

8月2日に下部岩壁のフィックス工作。本来なら取付からワンプッシュのアルパインスタイルでトライしたいところだったが、下部岩壁の傾斜の強さから時間がかかることが予想されたため、BCにあったロープ8本をかき集めてフィックス工作をすることにした。ラインは、前回登った右端の岩稜の一本左。取付と1ピッチ登った場所に古いスリングを見つけたが、それ以降は人工物を何ひとつ見つけることはなかった。9ピッチのガリー〜チムニー〜クラックの登攀(最高5.11c)で小レッジまで。雨の中びしょ濡れになりながら、同日中にBCまで戻る。

2日間のレスト後、8月5日夜明け前にゴーアップ。フィックスをたどり、トップに着いてから不必要な装備やロープをホールバッグに入れて投げ落とす(登攀翌日、回収を行なった)。

ここから登攀開始。岩セクションは全ピッチ長門が

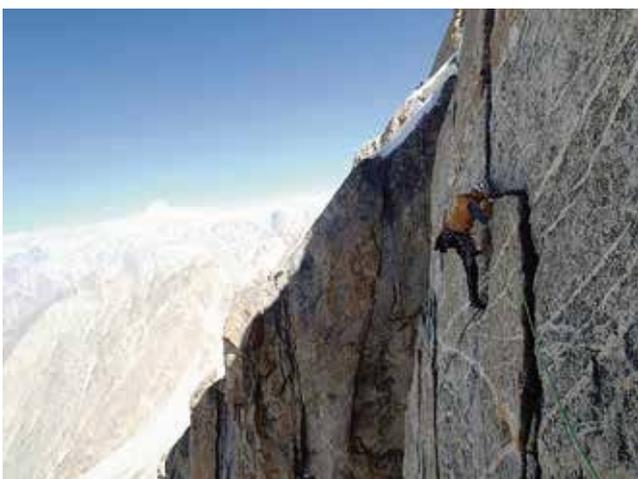
リード。

初日は7ピッチ(A1含む)登り、岩稜上でビバーク。雪がないため水が作れず、またテントを張れるだけのスペースもなく、初日から苦しいビバーク。

2日目は同時登攀600mを含む8ピッチの登攀(5.11c、A2)で前回の2ビバーク目のテラスまで。夜10時過ぎまで頑張った。ラインは非常に複雑で、何度も行ったり来たりを強いられた。また、風化した岩の人工登攀や重荷を背負っての同時登攀など、体力も技術も高いものを要求され、ルート全体を通しての核心となった。

3日目は前回と同じラインをたどるので気が楽。A1クラックを含む4ピッチの岩登りも首尾よく越え、冰雪壁へ。ここから先は、すべて横山がリードとなる。4回の懸垂下降、ならびに5ピッチの冰雪壁の同時登攀でバダルピーク山頂へ。雪を削ってテントを張りビバーク。

4日目はいよいよ前回敗退したポイントを越え、新しい領域に入る。2回の懸垂下降を交え、複雑なリッジをひたすら同時登攀で進む。前半は主に稜線の右側、後半は大きく左に巻いて、巨大なセラックの下をトラバース。最後はセラックの間を縫って頂上プラトーに立つ。午後4時、テント設営。まだ時間があったので、山頂を目指すつもりで出発したが、雪が柔らかく、腰までのラッセルを



Sun Patch Spur下部岩壁上部のクラック(5.10b)

バダルピークからK7 Westまでのリッジは複雑



強いられのためにテントに戻る。翌日、夜明け前から動き始めるつもりで就寝。その夜から降雪が激しくなる。

5日目。降雪は明け方まで続いたので、起床を遅らせる。夜が明けて、不安とともにテントの外に出ると、雪壁にもあまり雪は付着しておらず、安心して出発。低温、ラッセル、それに視界不良により時間がかかったが、午前9時過ぎ、無事に登頂。すぐに下山を開始し、テントを撤収後に北西壁側に下降を開始。途中から吹雪が始まったが、なおも下降を続ける。20回以上の懸垂下降の末、日暮れ直前に氷河に降り立つ。

6日目。反対側の尾根に向かってガリーを登り返し、尾根からは岩の斜面をBCに向けて一直線。午前中にはBCに戻る。

8/11 BC滞在最終日。片付けとホールバッグ回収。その後、ボルダリング。

8/12・13 バックキャラバン。BC～サイチャー～フーシェ。その後スカルドウまで車で戻る。

8/14 フライトにてイスラマバードまで。と思いきや、フライトキャンセルにより急遽車をチャーターし、陸路でイスラマバードまで向かう。横山は車酔いにより一日中グッタリ。本遠征中、最も辛い時間であった。

8/15～17 イスラマバードにてウダウダ。ひたすら漫画を読み漁る。

8/18 帰国。成田空港で日本食とビールで乾杯し、40日間の遠征を終える。

いつもの遠征に比べると、トータルの現地滞在時間は短く、また街での準備にも時間がかかったため、BC滞在はたったの3週間であった。「まともなトライはできるのだろうか？」という不安に追い打ちをかけるように天候も安定せず、順応活動にも支障をきたすほどの降雪があったりして、ネガティブな要素が増えていった。

それでも、結果的には2チームともに満足のいくクライミングができて、本当にうれしい限りだ。どちらも、一番の目標に掲げていたクライミングはできずに終わった



リッジ最上部は左のセラック下から巻く



Sun Patch Spur下部岩壁の最上部はボロボロの岩

が、それを凌駕するくらい内容の濃いクライミングで、これまでの登山経験の中でも一、二を争うほどの難易度とクオリティの高さだったと自負している。これまでに培った経験がやっと花開いた結果と言えるだろう。

ここ数年は、ヨセミテやパタゴニアで岩登りを中心とした活動ばかりしていたが、そういう経験がなければ今回の結果はなかったと思うし(特にベアトリス)、また、かつてアラスカやアンデス、ヒマラヤなどでひたすら氷雪壁、ミックス壁を登り込んだ経験がなければ、上部で敗退していただろうことも容易に想像がつく(特にK7 West)。またそれら以前に、国内における登攀では海外を意識したトレーニングを夏冬通じて行なっていて、そういうすべての経験の積み重ねが今回の結果だと言えるだろう。今回のメンバーは全員が1979年生まれの38歳(佐藤は12月に38歳になる)。30代の集大成と言えるだけの登攀ができたと思う。

それぞれが理想の登攀を思い描き、それをヒマラヤの大きな山の中で具現化する。こんなに贅沢で充実感のある時間を持つことができたのは幸せである。サポートをしてくださった各スポンサーならびに山仲間、家族、そして日本山岳・スポーツクライミング協会に感謝したい。

■メンバー構成

隊長:横山勝丘(38歳)、長門敬明(38歳)、増本亮(38歳)、佐藤裕介(37歳) 計4名



K7 West山頂にて。左:長門、右:横山

平成29年度中高年安全登山指導者講習会(西部地区)報告

平成29年度中高年安全登山指導者講習会(西部地区)が10月7日(土)～9日(祝月)の日程で、山口県山口市の県の研修施設「山口県セミナーパーク」大研修室をベースとし、8日の実技講習はセミナーパークに隣接する「陶ヶ岳連山」にて開催された。

受講者は、奈良1、兵庫1、鳥取2、島根3、岡山1、広島4、山口10、徳島4、香川5、福岡2、佐賀2、長崎3、熊本1、大分3、宮崎1、鹿児島1、沖縄2の17県から46名(男33名、女13名)が参加し、主催者、講師、スタッフを合わせると総勢76名となった。

1日目は、受付、開講式のあと、国立登山研修所講師で日本登山医学会の水腰英四朗医師により、講義1「ファーストエイド～初期対応と緊急性の見極め」をテーマに講義をいただいた。内容は山岳遭難者が年々増加しているが、この中にはファーストエイドが適切であったら、助かった命があったかも知れない。事故が発生したときに仲間を助けられるのは登山者自身です。

ファーストエイドは大まかに予防→救急措置→救助要請の3ステップに大別され、特に救急の観点から患者の状態を悪化させないためには、できるだけ早く(目標2分以内)確実に「初期評価・蘇生・ゴール設定」までを行えることが必要で、救急手順をキーワード化し覚えやすい言葉で纏めたのが3S A B C D Eで、この手順について分かりやすく説明をいただいた。

また、緊急性が高いと判断した場合は迷わず救助要請を行い、通報要領は「山岳遭難です」と明確に伝えることが重要と説明された。

次は2日目の技術講習のために「単位技術」として実習を行った。内容は、傷病者対応の3S A B C D E・低体温症患者への加温方法・傷の手当・ツェルト設営・ロープワーク・搬送方法等について、「パワーポイント」で説明しながら指導員や経験のある参加者間で教え合いな



閉講式

がら全員が習得できるようにした。

2日目の実技場所は裏山の陶ヶ岳連山。施設からそのまま歩いて登られるので移動時間ロスが少なく研修や討議に充てる時間を多く確保できた。また、研修効率を上げるため受講者を2隊に分け、更に隊を2班に分けて交差縦走を行った。

縦走路途中に課題設定ポイントを4ヶ所設置し、P1とP4では傷病演技者と装備をもって、班単位で内容を検討しながら課題の救助対応を勉強して頂いた。

また、各ポイントでは終了後、受講者間で反省と評価を行い指導員及び講師からアドバイスをいただいた。

P1ポイントでは「軽度の低体温症」と「中度の低体温症」の患者救助の課題を、初日の「単位技術」講習を思い出しながら班ごと交互に「低体温症演技患者」に対し、3S A B C D Eから入る救助対応を求め、中程度で体温が下がっている患者に対しては、患者を移動することや、体皮膚面の冷えた血流でアフタードロップを起こさないことに注意し、体の体幹部に対しては加温の必要性、ヘリ救助まで傷病人の対処方法等を体験した。

P2ポイントにおいては、約600m離れた場所で主催者が用意した器具(ホイッスル・ヘッドランプ・蛍光シート)にて緊急信号を発信し、山頂側で受講者に見える程度、聞こえる程度を評価してもらい表に纏めた。



ツェルトでの搬出講習



研究協議

まとめでは、太陽の位置によって判別しにくいこと、色彩も深緑と紅葉の時期などで違うこと、ホイッスルの音には大差があることも判断できた。

P3ポイントでは、ビバークに関する講習を行った。適地を探してツェルトビバークをしなさいという課題。

意見交換の際、北村先生から自分は手早く行う為、ツェルト側の細引きは最初から取り付けていること、ザックの雨蓋に入れ寒冷期の休憩時に防寒に使用しているというコメントがあった。また、受講者に聞くとビバーク用のレスキューシートは持っていても使用したことが無い人が大多数であった。

P4ポイントでは、岩場で3m程度の高さから転落し、腕の擦過傷、足首の骨折、全身打撲という想定で救出方法の課題を行った。

3S A B C D Eでの状況確認、擦過傷の包帯処置、足首骨折箇所のサムスプリント固定、ヘリの要請、転落岩場からのテープスリングによる背負い搬送救出、ムンターヒッチによる確保、更にヘリ飛来地点までのツェルト搬送、ヘリの誘導までの一連の流れを行った。リーダー指揮下のもと分担、協力しあつての作業の大切さを学んだ。

講義2は、岳連会員で山口県総合医療センター整形外科医の守屋淳詞医師に「登山者の膝痛対策」と題して、膝痛の原因と対応について講義を戴いた。受講者に「膝痛」を経験した人が多く、質疑応答では、膝痛を持つ参加者からの経験談、対応(手術・ストック・サポートタイツ等)について意見が出、必要に応じ守屋医師のコメントを戴いた。サポートタイツについては効果を実感する旨の話が多かった。

また、サプリ使用の効用については有効性が確認できないものもあるし、肝障害を起こすサプリもあるので、注意が必要とのコメントもいただきました。

3日目は「中高年登山の現状と問題点」と題して、登山研修所専門調査委員長の北村憲彦先生の講義。遭難及び遭難者は相変わらず右肩上がりの傾向を示してい



ツェルト・ビバーク講習

る。定年前後に登山を始める方が多く、大きな山への登山を安易な遊びと勘違いしている傾向があり、事故の比率を押し上げていると思われる。事故の内容から体力づくり、登山知識やリスク管理の習得が必要であり、特に単独登山者の死亡・行方不明の比率が高いことから、山岳会や登山グループへの加入等も必要と講義されました。

続いての研究協議は「低体温症」「転倒・転落・滑落」の2つのテーマについて6グループに分かれての討議でした。各人が思いつく状況(どこで、いつ、どんな状況で・なぜ・原因等)をキーワードとして、皆でメモ紙に書き連ね討議の上模造紙に整理し、重要ポイントを絞り込む方式がとられ、最後にグループ代表が発表し、受講者全員で情報の共有化ができた。

3日間に亘る講習の期間中は天候にも恵まれ、予定通りの内容が実施でき、また、受講者の積極的な質疑や行動により、講義内容を取り込んだ実技も楽しく運営することができました。事故もなく安全に講習会が終了できたのは偏に受講者や関係各位の協力の賜物と厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(山口県山岳・スポーツライミング連盟遭難対策委員長
坂口仁治)



岩場での救出講習



講習会の参加者(P2ポイントで)

今年の無雪期レスキュー講習会は9月8日(金)～10日(日)富山の国立登山研修所にて開催された。

受講者44名、スタッフ16名の合計60名の参加であった。3日間天候にも恵まれ、事故もなく今回も無事講習会を終了することができた。

8日(金)12:30受付開始、13:00より開講式が行われた。挨拶とオリエンテーションの後、昨年度の山岳事故統計や那須での雪崩事故をはじめ、主な事故事例や事故の傾向について町田より報告を行った。その後は各クラスに分かれそれぞれの主任講師を中心に講習が行われた。

縦走ハイキングは瀬藤主任講師が担当した。運動生理学をはじめ、山でのファーストエイドや補助ロープによる悪場の通過、ツエルトの張り方や搬送法等内容は盛りだくさんである。講習は現場での事故を想定した実践的な内容となっており受講者の評判も上々であった。

クライミングレスキューに関しては従来2クラスであったが、今回は新たに基本コースとして1クラス増設、ABCの3クラス編成とした。基本コースのクラスAは松本(埼玉)主任講師が担当した。基本コースではロッククライミング中に発生しうる事故パターンの説明から、事故に対応するために最低限必要なデバイスやロープの結索について学習した。また、実際にリーダーの墜落を体験していただくため約60kgのダミーを使った確保の実践も行った。昨年までの講習では岩場で発生する事故の概念を充分理解している方を対象としてきたが、中にはフリクションノット等レスキューでよく使われる基本技術につて習得していないまま参加される方も散見された。こういった方々への対応として今回新たに基本クラスを設けた次第であ



開講式

る。受講者からは理屈に則った内容であり、それぞれの技術がなぜ必要なのかがよく理解できたとのコメントを頂いた。

クラスBについては石田主任講師が担当した。例年通り、必要とされる個々のレスキュー技術の確認から、最終的にはそれらを組み立てた一連の流れについて学習した。また、クラスA同様ダミーによる墜落体験を実施した。墜落体験は大変好評であったが全員が終了するのに2時間ほどかかるため時間配分について今後は工夫が必要であろう。

クラスCは一本松主任講師が担当した。ここではクラスBに加え、より実践的なレスキュー技術について講習を行った。現場に居合わせた他のグループも加わってのコンパニオンレスキューとして、岩壁でのけが人を複数の人間によって降ろす操作までを学習した。今回は、岩場の救助に不慣れな消防士の方にも参加していただき、岩場における実際の事故について理解を深めていただいた。

ワークレスキューについては角田主任講師が担当



岩壁救助講習



熱心に講義を受ける講習生

した。今年を受講者8名全員が消防士で、講師にとってはやり易い半面クライミングに特化した技術については1から説明しなければならず、時間を費やす面もあった。レスキューに使用される特殊な資機材の説明から、強固な視点の取り方、岩場での現場への侵入ルートの構築、要救助者の引き上げシステムや釣り降りしについて学習した。最終日には墜落事故を想定したシミュレーションを行い現場での一連の流れについて理解していただいた。

ワークレスキューのクラスについては今年を持って終了とする。理由は、本来登山者対象の日山協事業で公務に当たる方々への講習を行う事の疑問や、ワークレスキューに関する技術は日山協でオーソライズされているものではない事などである。最も大きな理由は、今後ワークレスキューに精通した講師の確保が難しい点であろうか。講習会は10日13:00閉講式をもって予定通り終了した。

指導、遭対では昨年度より一般登山者向けの登山教育としてハイキングリーダーなる講習会および資格制度について検討、整備を進めてきた。この企画は来年度より本格的な運営を予定している。ハイキングリーダーとこの講習会でやっている縦走ハイキングの内容はほとんど同一であるため、どうすみ分けしていくのか見当が必要であろう。また、講師にあっても高齢化

が進んでおり、先を見据えた若手講師の育成も考えていかなければならない。委員長就任と言う事もあり、私も今年度から長年務めてきた主任講師を降板させていただいた。講習のあり方をはじめ、内容や講師についても一考の時期にあると感じる。

(遭難対策委員長 町田幸男)

〈訂正とお詫び〉

登山月報583号3頁の世界ユース選手権の成績に一部誤りがありましたので、お詫びして訂正致します。
 ユースA男子複合：土肥圭太5位、田嶋瑞貴13位
 ユースB男子複合：川又玲瑛2位、西田秀聖3位、
 坂井亮瑛4位
 ジュニア女子複合：田嶋あいか6位
 ユースB女子複合：谷井菜月1位、森秋彩2位、
 伊藤ふたば3位

あこがれの名峰に、短期間でチャレンジ!

(山麓乗り入れ)キリマンジャロゆったり登頂と アールシャ国立公園サファリ 10日間

発着地 東京 旅行代金 ¥498,000~¥538,000

出発日 12/15(金)・1/12(金)・1/26(金)・2/9(金)・2/23(金)

※燃油サーチャージ(2017年9月20日現在:目安約0円~19,400円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボイパ保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com



平成29年度10月(29年10月)
常務理事会報告

日時 平成29年10月12日(木)
18時~21時

場所 岸記念体育会館・4階会議室

出席者 八木原会長、亀山、高橋、伊藤、
平山の各副会長、尾形専務理事、小野
寺、水島、村岡、小日向、合田、仙石、
蛭田、町田の各常務理事、中島、古屋
監事(16名中16名出席)

1. 議事

- (1)平成29年度9月常務理事会・議事録の承認について:異議なく承認された。
- (2)各種規程の改定について
合田常務理事が下記の規程について提案説明し、承認が諮られた。
 - ①倫理規程:一部修正で承認。
 - ②処分規程:一部修正で承認。
 - ③裁定審査会規程:一部修正で承認。
 - ④スポーツクライミング競技会に関する公認規程:一部修正で承認。
 - ⑤ユニフォーム等運用内規:一部修正で承認。

- ⑥会計処理規程:提案フォーマットを訂正して再提案。
- ⑦競技規則:スポーツクライミング部で検討して再提出。
- (3)平成30年度事業及び予算編成方針(草案)について:次回常務理事会で審議。
- (4)第3回理事会議事次第について
閉会予定時刻を訂正して承認。
- (5)毎日スポーツ人賞候補者推薦について:スポーツクライミング部に一任。
- (6)日本スポーツ賞候補者推薦について
スポーツクライミング部に一任。
- (7)今後の常務理事会・理事会の日程変更について:異議なく承認された。
- (8)国体委員会補正予算について:承認

2. 報告事項

- (1)平成29年度上期事業、会計報告
- (2)第72回愛媛国体山岳競技報告
- (3)第73回福井国体進捗報告
- (4)審判・ルートセッター資格登録更新システム進捗
- (5)海外登山懇談会「カナディアン・アイスクライミング」
- (6)各種SC大会報告について

3. 専門委員会動静

- 9月(9月10日~10月10日)
 (1)指導常任委員会

- 10月2日(月) 出席9名 委任8名
 ア)夏山リーダー制度について
 イ)主任検定員養成講習について
 ウ)検討事項

- ①スポーツクライミング上級指導員養成
中央開催(宮城)

- ②登攀技術研修会(福島)

- ③平成29年度SCテキストの進行状況

(2)国際委員会

- 9月12日(火) 出席8名、委任5名

ア)報告事項

- ・平成28年度後期海外登山奨励金隊のシスパーレ隊、K7隊ともに、登頂成功して帰国。
- ・平成29年度前期海外登山奨励金について(7/25、選考委員会)

- (登山月報582号既報の通り4隊に交付決定)
- ・山岳スキー小委員会

- 2020年の第3回冬季ユース五輪で山岳スキー競技が正式種目に決定。
- ・イェジ・ククチカ映画の夕べ

- 10/11(木) 国立オリンピック記念青少年総合センター

イ)協議事項

- ①平成29年度国際委員総会兼第56回海外登山技術研究会の反省
- ②第4回海外登山懇談会について

- 11/16(木)19:00~ 国立オリンピッ

- ク記念青少年総合センター
- ③海外登山奨励金申請書の記入項目の追加について
- ④国内外に向けてのHP案について
- (3)国際委員会-2**
10月10日(日) 出席10名 委任4名
ア) イェジ・ククチカ映画の夕べについて
イ) 第4回海外登山懇談会について
ウ) 平成30年度総会/海登研の会場、主管について: 栃木県開催を予定。
エ) 国内外に向けてのHP案について
オ) 日本の山名の英語表記について
- (4)山岳スキー委員会**
10月3日(火) スカイプによるネット会議 出席5名
ア) 12月中国ユースキャンプへの派遣について
イ) アジア選手権大会の開催(2018年4月)について
- (5)ジュニア委員会**
9月26日(火) 出席4名 委任4名
ア) 報告事項
①立山ジュニア登山教室2017
②国立登山研修所主催の高校山岳部顧問を対象とした安全登山講習会
イ) 議題
①立山登山教室の募集方法について
- (6)自然保護委員会**
9月9日(土)~10日(日)
平成29年度自然保護委員総会一第41回山岳自然の集い、白山大会一報告

- (7)スポーツライミング医科学委員会**
7月31日(月) 出席7名、委任3名
ア) 平成29年度委員紹介、業務分担案について
イ) 平成29年度事業計画について
ウ) 平成29年度予算について
- (8)スポーツライミング医科学委員会-2**
9月16日(土) 出席7名、委任3名
ア) 合田担当理事より報告
・委員会規程について
・アンチ・ドーピング、倫理講習会
イ) JOCジュニアオリンピックカップ 医務報告
ウ) 競技会医務担当割り当てについて
エ) 各業務担当委員より今年度業務計画について
オ) その他
① I F S C MedComの報告(六角委員)

- (4)第72回国民体育大会山岳競技大会
9月30日(土)~3日(火) 於: 愛媛 西条市 八木原会長、平山副会長、村岡常務理事、西原委員長
- (5)日本ヒマラヤ協会創立50周年記念祝賀会 10月1日(日) 於: 主婦会館プラザエフ 亀山副会長
- (6)中高年安全登山指導者講習会西部地区 10月7日(土)~9日(月) 於: 山口 陶ヶ岳 伊藤副会長、仙石常務理事
- (7)イェジ・ククチカ映画の夕べ 10月11日(火) 於: 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟311 八木原会長、尾形専務理事

4. その他の重要事項

- (9月20日~10月11日)
- (1)ネパール・ナショナルデー・レセプション 9月20日(火) 於: ホテルオークラ 八木原会長、尾形専務理事、小野寺常務理事
- (2)中高年安全登山指導者講習会東部地区 9月22日(金)~24日(日) 於: 静岡 竜爪山 亀山副会長、仙石常務理事
- (3)高校生等の冬山・春山登山の事故防止のための有識者会議 9月26日(火) 於: 文部科学省16階会議室 尾形専務理事



編集後記

11月5日陣馬山トレイル競技のコース誘導員で山頂へ、天気も良く空気が澄んでいて富士山がとてもきれいでした。登ってくる登山者も多くトラブルを心配しましたが問題なく終了。日山協山岳共済会では今年度からトレラン保険を設け会員増に取り組んでいます。周りに愛好者がいたら是非勧誘をお願いします。

(広報担当 水島彰治)

寄贈図書

雑誌	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」No.991
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.845
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第604号
	全日本ボウリング協会	「JBCnews」第551号
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.474
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第446号
	(公財)日本体育協会	2017年10月4日号 体協フェアプレイニュース/体協スポーツニュース
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.337
	(公社)国土緑化推進機構	「ぐりんもあ」Vol.79
	(公社)東京都山岳連盟	「TMF とがくれん通信」2017年3号
	埼玉県山岳連盟	「埼玉岳連」第58号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.513
	(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」No.16
	日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト	「HAT-J NEWS」No.107
	やまびこ山想会	「やまびこ」第173号
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第425号
	東京野歩会	「山嶺」VOL.95
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.226
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.695
	(公財)日本体育協会	2017年10月23日号 体協フェアプレイニュース/体協スポーツニュース
(公社)日本山岳会	「山」No.869	
La rivista del Club alpino italiano	「Montagne 360」2017.10	
日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第447号	

一般財団法人 日本トレイルランニング協会
神奈川事務局

〒252-0184
神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
☎042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

NPO法人 **北丹沢山岳センター**
神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 道志村トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

登山月報 第584号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 平成29年11月15日
発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内
公益社団法人
日本山岳・スポーツライミング協会

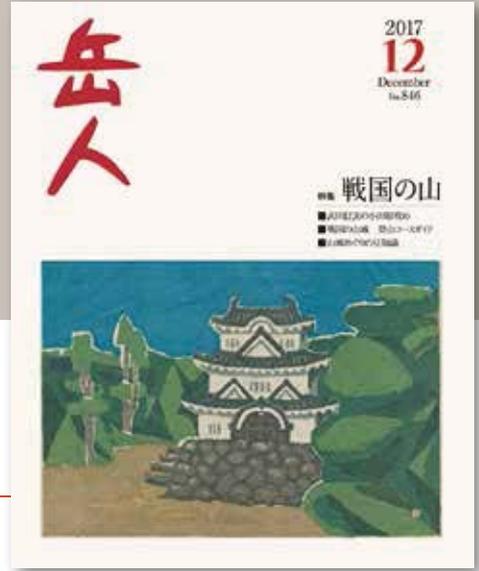
電話 03-3481-2396
FAX 03-3481-2395

山岳
雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」



12月号
発売中

【特集】戦国の山

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格815円(+税)

年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊
~~9,780円~~ (+税) → **8,965円** (+税)

1年間で815円
1冊分無料

年間購読特典 岳人オリジナルグッズをプレゼント!

岳人フォールディング スプーク

フィールドで活躍する
スプーン&フォーク。
岳人オリジナル
ケース付き。

※色はお選び
いただけません



▲折りたたみ時

さらに

はじめて
お申し込みの方に

ご継続の方に



岳人ピンバッジ



オリジナルBOX

年間購読
お申し込み方法

●ウェブサイトで
<http://www.gakujin.jp/>

●お電話で(受付後に振込用紙をお送りします)
☎ 0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

●全国のモンベルストアで
<http://store.montbell.jp/>

期待される、
という希望。

期待されすぎている、
という不安。



未来は、
希望と不安で、
できている。

明日をつよく。三井住友海上

www.ms-ins.com

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

日山協山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
公益社団法人 日本山岳協会 携帯サイト
(www.jma-sangaku.or.jp/mobile/)



WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.com)